

## 雑 報

### 天文教育普及のための指導者講習会

国立天文台が発足し、天文情報普及室という組織が設けられ、その具体的な活動の第 1 回として「天文教育普及のための指導者講習会」が開かれた。この講習会の企画を本誌をはじめ、幾つかの雑誌に公表したところ、大きな反響を呼び、多数の申込みを受けた。第 1 回目であること、受講を希望される方々の所属機関・団体などが把握できない点など、未知の条件が山積する状態であったため、当初は定員 30 名としたが、申込みを受付始めるとたちまち定員をオーバーする様な状況であった。

30 名程度であれば会場も国立天文台の輪講室を当てることで納まるが、それ以上となると講義室を使用しなくてはならなくなる。主催者としては嬉しい悲鳴であった。しかし、それでも申込みにも実際の参加人数には違いができることは当然なので、ふたを開けてみないとわからない、という不確定な要素もあったことも事実がある。ところが、これも杞憂に終り、申込者のほとんどすべてが実際に参加され、天文台の講義室に集まった。

講習会は 3 月 27、28 の両日に亘り、先づ古在由秀台長の挨拶に始まり、天文台の研究者による最先端の天文学についての解説、さらに普及指導上で必要と思われるようないくつかの問題が、それぞれ 40 分間の講話と 20 分間の質問と討議という形式で進められた。第 1 回目の夜は、天文台のシンボル 65 cm 屈折望遠鏡の解説と木星観望が行われたが、望遠鏡の大きさや木星像に只感動するとうに留まらず、参加者が体験的に経験した具体的な問題、例えばシーイングと口径についてとか、口径と最適倍率などに対する鋭い質問が多く寄せられた。

第 2 日目も初日に引き続き、現場の研究者による観測天文学や暦計算上の諸問題についての解説が前日と同じ要領で進められた。

今回は指導者講習会と銘打った会の第 1 回目であり、主催者側も参加者側も、それぞれの思惑と期待があり、



その思惑と期待が一致したり、また相反したことも多かったことと思う。しかし、何よりもその第一歩が印された点が大切なことと感じている。

今回の参加者は、最終的に 38 名であり、これは申込み者数 46 名の 83% であり、職業別に見ると教師（幼稚園 3%、小学校 6%、中学校 14%、高校・高専 22%）45%、プラネタリウム、科学館等の解説者 25%、図書館司書 3%、残る 27% がアマチュアの指導的立場にある人達という比率であった。

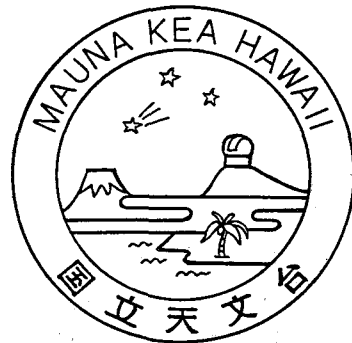
次に、参加者全員に配られた“指導者講習会要項”の日程表を記載し、次回の参加を望まれる方々への御参考としよう。1. 古在台長挨拶、2. 7.5 m 望遠鏡で見えるもの（小平桂一）、3. 天体写真を読む（香西洋樹）、4. 新天体その現状と対応（香西洋樹・平山智啓）、5. オーステン彗星を観測しよう（渡部潤一）、6. 65 cm 赤道儀式天体望遠鏡の紹介と木星の観望（畑中至純）、7. スペース VLBI について（森本雅樹）、8. 宇宙時代の天体暦（木下 宙）、9. 質問電話から（磯部瑠三）、10. 質疑応答。

なお、この要項の残部がありますので、ご希望の方は自分の住所・氏名を記入した B5 以上のサイズの返信用封筒に 120 円切手を貼って同封の上、〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台天文情報普及室指導者講習会宛に御請求下さい。（香西洋樹）

## お 知 ら せ

### JNLT ニュース創刊

大型光学赤外線望遠鏡設置調査費が平成 2 年度政府予算で正式に認められたのを機に、JNLT 計画に関する最新情報を「JNLT ニュース」として発行することになりました。当面はホットニュースを中心に不定期刊行で始めます。JNLT/WG 資料を見たいだいでいるグループに配布させて載きますので、適宜、掲示等により関心のある方々にも見ていただけるようにご配慮載ければ幸いです。なお、JNLT ニュース創刊にあたり JNLT ニュース用のシンボルマークを天文月報 5 月号などで公募いたしましたところ、多数の方々から各種のデザインをお寄せ載せました。JNLT WG、ニュース編集委員会でも検討いたしました結果、沖田喜一、三神泉、匿名三氏の



原案をもとに下記のように決まりました。オリジナルな作品をお寄せ下さった皆様にお礼申し上げます。

国立天文台 JNLT WG ニュース編集委員会